

Monthly Letter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～令和元年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



「新しい年にあたって」ふくいCOC+事業推進協議会議長 新年メッセージ

平成27年10月からスタートした福井県内の4年制大学5校(福井大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学。なお、福井医療大学は開校時期の関係により協力校として参加)によるCOC+事業は、昨年も、参加大学の学生の皆さん、教職員そして県や産業界等の事業協働機関の皆様のご協力も頂きまして、順調に遂行できました。具体的には、Fスクエアや双方向での共同授業の開講、高大接続・インターンシップ・留学生定着等の取組、特色人材育成部門での各ワーキンググループによる活動や報告(フォーラムでのポスターセッション)、地元定着に向けたフォーラムの実施、第3期生にあたる「ふくい地域創生士®」の申請等々であります。



そのような積み重ねもあり、昨年12月に2年ぶりに実施しました外部評価者による実地評価におきましては、「地元産業界・行政・教育機関等が一体

となり、地元企業で活躍できる人材を育成する視点で、地域創生に資する取組を進めていることを確認した」として高い評価を得ることができました(注1)。

ただ、本年3月がこのCOC+事業に対する文部科学省による支援の最終月となります。従いまして、これまでの事業内容をどのように継続していくのかが、これから年度末に向けての大きな課題でもあります。その一環として、昨年9月に、福井県の大きなご協力もあり、県内全ての高等教育機関8校と、福井県によるFAA(ふくいアカデミックアライアンス)の設立がありました。このFAAの理念は、

①本県の将来を担う人材を育成・輩出する

②本県の人口減少対策や、地域・産業の活性化、医療、福祉、教育などの発展に寄与する

でありまして、現在この理念達成のために4部会(教養共同化部会・地元定着部会・入学者確保部会・協働教育部会)を設けて検討を続けているところであります。正に、このFAAはCOC+事業を発展的に引き継ぐものでもありますので、関係各位におかれましては、県内の高等教育機関として地域貢献のために何が出来るかという観点で従来以上のご協力をお願い致します。

今年はそういう年であることの意味を込めまして、新しい年にあたってのご挨拶とさせていただきます。

(ふくいCOC+事業推進協議会議長 福井大学長 上田孝典)

(注1)詳細は、12月号で記載

学生必読

シリーズ「ふくい地域創生士®」

現在「ふくい地域創生士®」第3期生の認定に向けて、各大学での準備が着々と進んでおり、3月9日に大学連携センター(Fスクエア)での認定証授与式及び「ふくい地域創生アワード」の表彰式が挙行されることになっています。

「ふくい地域創生士®」認定に興味を持った1～2年生の皆さんは、今から準備をしても遅くありません!

HP(<http://www.allfukui-cocp.jp/sousei/>)
をチェックしてください。

1～2年生の皆さん、是非応募してみてください。



↑左記HPリンク先↑



舟木コーディネーター

「永平寺町防災研修会」が開催されました！

永平寺町と福井大学が主催する令和元年度永平寺町防災研修会に看護学生が参加しました。この研修会は、永平寺町内の自主防災組織の自律的な活動をめざすための取組で、今年度は8月4日に上志比文化会館サンサンホール、11月24日に永平寺町消防本部、12月15日には永平寺町役場にて開催されました。永平寺町内の地区役員や自主防災リーダーなど、のべ124人の住民の方が参加されました。学生は、福井大学医学部看護学科1～3年生の11人が参加しました。

研修会の運営は、永平寺町職員と災害看護専門看護師が主体となっており、災害看護専門看護師による講話「近年の災害の現状と避難所の実際」と、避難所運営ゲーム(HUG)を行いました。学生も住民のグループに入り、一緒にHUGを体験しました。次々と訪れるゲーム上の避難者の対応や、トイレ、支援物資の対応などについて、一緒に考えることができ、住民の方との交流の機会となりました。

参加した学生からは、「避難所を運営する上でも、衛生観念や感染に関する知識はとても重要で、今学校で学んでいることの意義を再確認することができた」「同じ永平寺町内でも地区によって防災に対する意識は様々であることが分かった。地域の方々と話す機会はなかなかないので、たくさん話すことができてよかった」などの感想が寄せられました。今後も研修会開催の機会があればWG内で情報を共有し、学生の参加を呼び掛けていきたいと思えます。

(福井大学 医学部看護学科 准教授 月田 佳寿美先生より寄稿いただきました。)



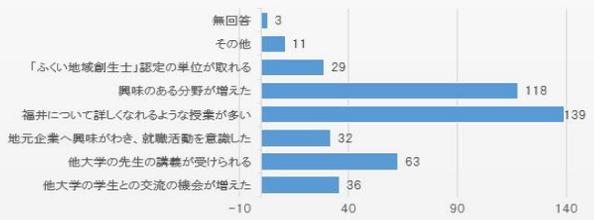
大学連携センター(Fスクエア)で履修している学生へアンケートを実施

大学連携センター(以下、Fスクエア)での共同開講科目を履修している学生へアンケートを実施しました。(対象科目: 令和元年度前期13科目)。アンケート回収率は、87.3%(実施期間中、対象科目出席者数は315名、このうちアンケート回収数は275名)という結果になりました。

アンケートを実施した科目を履修している学生のうち、1・2年生は約75%を占めており、3年生は17%、4年生は約7%でした。また、県内・県外の比率を見てみると、県内出身者約49%、県外出身者約51%と幅広い年代、地域出身の学生がFスクエア開講科目に興味を示していることがわかりました。

令和2年4月以降も、Fスクエアでの授業継続が決定し、科目等について検討を重ねているところですが、「Fスクエアで授業を受けて、良かったと思うことは何ですか?」との問いに学生は、右表のとおり、「地元企業への興味がわいた」「興味のある分野が増えた」「別の学部の先生の授業がとれた」など、自学または自学部だけでは得ることのできない、広がりを感じていることが伺えます。

Fスクエアで授業を受けて、良かったと思うことは何ですか?
(複数選択可)



編集後記

新しい年を迎え、気がつけばCOC+事業も残すところあと2カ月。5年という月日は長いようで短いものでした。COC+事業に自分が微力ながらも関わることができたことに感謝するとともに、またこの事業がこれからの福井県を活性化させる一つになれば何よりです。4月以降新たな事業(FAA)もあり今後の福井県の発展に期待しています。(飛山)

